

## 会派研修実施報告書

会派研修の結果について、下記のとおり報告します。

令和3年5月6日

光市議会議長 中本和行様

光市議会会派 『共創』

代表 田中陽三

議員 仲山哲男

### 記

- 1 研修日時 令和3年4月10日（土） 10:00～12:00
- 2 研修場所 地域づくり支援センター2階 視聴覚室  
(光市島田四丁目14番3号)
- 3 研修内容 つながる勉強会 第1回「フードバンク&こども食堂(地域食堂)」
- 4 研修結果 別紙のとおり

日 時	令和3年4月10日（土）10:00～12:00
場 所	地域づくり支援センター2階 視聴覚室（光市島田四丁目14番3号）
テーマ	つながる勉強会 第1回「フードバンク&こども食堂（地域食堂）」
主 催	光市議会会派「共創」
参加者	市民26名+講師含む運営側6名=32名
目 的	<p>食品ロスの削減とロスとなっている食べ物を有効活用し、全ての人が困らない持続可能な社会の構築を目指す「フードバンク」と、子どもだけでも来られる食堂として東京で始まり、今では地域の誰もが来られる新たな地域交流の場であり、子どもを見守り支える場としても注目される「こども食堂（地域食堂）」については関連が深く、コロナ禍において益々その活動が注目され、山口県内にも広がってきている。</p> <p>光市内でもその普及と取り組みを促すため、制度や仕組み・実践例を学び、共に課題解決・実践活動につなげていくことを目的に、市民に開いた勉強会として実施した。</p>

### 【研修概要】

#### ■第一部（講演）

「フードバンクとこども食堂（地域食堂）について」

講師：杉山美羽 NPO 法人フードバンク山口理事・事務局長

山口県こども食堂支援センター 統括コーディネーター



#### 「こども食堂（地域食堂）」

- ・2012年の発足以来、全国各地で開設され、コロナ禍のもとでも増え続け2020年には全国で5086カ所まで増え、山口県内にも90カ所設置されている。今後もコロナ禍で困窮する人は増えていくことが考えられ、益々注目されている。

- ・こども食堂（地域食堂）には様々なタイプがある。
- ・目的：子どもの貧困対策に特化してクローズでの実施もあるが、多数は子どもの貧困対策だけでなくオープンに、子どもの居場所・見守り、地域の多世代間の交流の場、孤食対応、健康づくり、学習支援など複合的な取り組みとして実施されている。
- ・開催場所：公民館・コミュニティセンター、小中学校、児童館、社会福祉施設、お寺、店舗、個人宅等。
- ・開催頻度：週1回から月1回、長期休暇のみ、行事にあわせて、不定期の実施等、様々なやり方があるが、月1回・2回が多い。
- ・規模：10人から30人が多い
- ・利用料金：多くは0円から300円以内で実施。
- ・運営者アンケートでの運営上の課題は、来てほしい人への働きかけ、ボランティアの確保、資金の確保が挙げられている。
- ・資金面からも、こども食堂（地域食堂）の運営にはフードバンクからの食材の提供が有効で必須。
- ・新型コロナウイルス感染拡大に応じて、昨年6月には大半が一旦中止・休止を余儀なくされていたが、10月には地域の感染状況を見ながら実施するところが半数ほどになり、現在では、ほとんどが弁当や食材の配布などの支援活動を行っている。
- ・立ち上げや運営等については、「山口県こども食堂支援センター」がサポート。
- ・補助制度もあり。

### 「フードバンク」

- ・『もったいない』を『ありがとうへ』を合言葉に、まだ食べられるのに不要となり廃棄される未利用食品を、食の支援の必要な方に届ける活動。
- ・食料自給率が40%を切るなか、県内で推計される食品ロスは年間、事業系3.9万トン、家庭系3.2万トンもあり、廃棄の負担も含め社会的な課題であり、有効活用により食の格差を減らす重要な活動である。
- ・事業系からの寄贈される未利用食品は、余剰在庫、1/3ルールによる返品、規格やデザインの変更、季節商品等々であり、ローリングストックの災害備蓄品の更新による提供もある。
- ・家庭系から提供される未利用食品は、各所に設けるフードバンクポストに提供いただき、ボランティアが回収してステーションに運ぶ。現在、県内50カ所以上のポストが設置されていて、光市内では、コープやまぐち「ここと島田店」に設置されている。
- ・提供される未利用食品は、未開封で包装や外装が破損していないこと、常温保存が可能であること、賞味期限・消費期限を過ぎていないことなどの条件があり、冷蔵品・冷凍品、お米、野菜・果物は、事前に問い合わせが必要。

- ・別の活動とのジョイントとしては、レノファ山口のホームゲームでのフードドライブ等、イベント時に未利用食品を受け付ける活動も実施している。
- ・トレーサビリティ（追跡が可能な状態）のため、食品に番号付けを行っており、ボランティアの重要な仕事となっている。
- ・食品の届け先：児童福祉施設、母子生活支援施設、こども食堂（地域食堂）、介護施設、DV 被害者支援団体、社会福祉協議会、身障者共同生活支援センター、子どもの貧困対策支援団体、地域包括支援センター、スクールソーシャルワーカー、ケアマネージャー、民生委員など困窮の状況が確認できるルートを通して配布する。運営主体が飲食店の場合は不可。
- ・受け取りは、原則、指定日にステーションに取りに来ていただく。
- ・長期休暇等に「こども宅食便」として、県下のスクールソーシャルワーカー、社会福祉協議会、こども食堂（地域食堂）を通し、食品を必要とする家庭に送付している。

## ■第二部（実践報告・意見交換会）

「こども食堂 スマイルホーム」

報告：吉村辰徳 「みんなで笑顔の会」代表



「フードバンク山口 ひかりステーションの設置」

報告：熊谷朝和 熊谷興業（株） 代表取締役





吉村さんからは、実践者として立ち上げの経緯、苦労話、心構え等をお聞きし、熊谷さんからは、光市内に開設を予定している「フードバンク山口 ひかりステーション」についてお話をお聞きした。

その後、杉山さん、田中、仲山を交えて、会場からの質問に答えながらの意見交換会を行い、参加者から気になっていたことや実際の取り組みに対する質問が多くあった。

以下に、参加者アンケートでの感想等を紹介。

- ・地区社協でも勉強会を紹介し、検討したい。
- ・老人クラブ若手グループでもフードバンク拠点活動のお手伝いを検討したい。
- ・こども食堂を違うイメージで捉えていたが、この勉強会で大切な活動と知った。何らかのかたちでお手伝いできたらと思った。
- ・実際に活動している方々の話でわかりやすく、立ち上げ時のイメージが湧いてきた。
- ・講師の熱い思いで活動が広がっていることがわかった。
- ・こども食堂が市中に広がっていくよう協力できればと思った。
- ・努力して実現成功させたいですね。継続は力なり。
- ・前向きな方々がたくさん集まって、これから光市で広がっていくことを感じた。

### 【所感】

- ・フードバンクとこども食堂（地域食堂）の活動が広がることにより、未利用食品の廃棄が減ることや、子どもの居場所づくりや見守り、地域の多世代交流、生活困窮者の支援、健康増進など多くの社会的課題の解決に貢献することが期待される。
- ・コロナ禍で、子どもたちの置かれている状況が厳しくなっていることを考えると、その活動の重要性が増している。また、子どもたちの置かれている状況をキャッチする最前線としても重要と考えられる。
- ・こども食堂については、現在市内に「カフェアゴラこども食堂」「おすそわけこども食堂」の2カ所が活動している。「フードバンク山口 ひかりステーション」が県内8つ目のステーションとして光市内に本年5月開設予定であることから、これを契機にこども食堂（地域食堂）とフードバンクをつなげて未利用食品を活用し、2箇所以外の地域で

も取り組まれることが期待される。

- 参加者アンケートでは、こども食堂（地域食堂）活動をしてみたいが34.6%、フードバンク活動をしてみたいが46.2%となり、勉強会自体も参加者全ての人から「とても良い」「良い」の評価をいただき、実りある勉強会とすることができた。
- こども食堂（地域食堂）とフードバンクは関連が深く、共にボランティアとしての市民参加が不可欠な活動であり、担い手となる人材の育成も不可欠である。ちょっとした市民の優しい想いを大切に、仲間づくりにつながる活動や情報発信を行い、今後も地域の課題解決につながる仕組みづくりに取り組んでいきたい。